

<大腸がん検診>

◆市町の評価に関して◆

* 本調査は、平成23年度（調査対象年度は平成21年度）から開始しており、6年目の調査となります。

平成28年2月4日付け厚生労働省局長通知において「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」の一部が改正され、がん検診事業評価のためのチェックリストについても、平成28年に大幅に改定されました。

【調査項目（53項目）】

- (1) 検診実施体制整備に関する調査（調査対象年度：平成28年度）
 - ①検診対象者の情報管理、②受診者の情報管理、③受診者への説明、及び要精検者への説明、④精密検査結果の把握、精検未受診者の特定と受診勧奨、⑤地域保健・健康増進事業報告、⑥検診機関（医療機関）の質の担保の27項目

- (2) 検診の精度管理把握に関する調査（調査対象年度：平成26年度）
 - ①受診率の推計、②要精検率の集計、③精検受診率、未受診率の集計、④がん発見率の集計、⑤陽性反応適中度の集計、⑥早期がん割合の集計、⑦粘膜内がん、非浸潤がんの集計の26項目

【評価方法】

市町から提出のあった調査項目への回答に基づいて、次の方法で評価しています。

ランク	調査項目	項目数
A	すべて満たしている	53項目 すべて満たしている
B	一部満たしていない	1～7項目 満たしていない
C	相当程度満たしていない	8～14項目 満たしていない
D	大きく逸脱している	15～21項目 満たしていない
E	さらに大きく逸脱している	22～28項目 満たしていない
F	きわめて大きく逸脱している	29項目以上 満たしていない
Z	回答がない	

【調査結果】

*市町別の評価は、下記のとおりです。（詳細な結果は、表1-1、表1-2を参照）

これまでも評価項目がクリアできるように指導し、見直しが行われてきました。C評価であった市町については、引き続き遵守できるよう改善を依頼していきます。

平成28年度 大腸がん検診精度管理調査結果

	市町名	評価		備考
		集団	個別	
1	金沢市	C	B	
2	七尾市	B		
3	小松市	B		
4	輪島市	B	B	
5	珠洲市	B		
6	加賀市	B		
7	羽咋市	C	C	
8	かほく市	C	D	
9	白山市	B	C	
10	能美市	B		
11	野々市市	B	C	
12	川北町	C		
13	津幡町	C	C	
14	内灘町	B	B	
15	志賀町	C		
16	宝達志水町	C		
17	中能登町	C		
18	穴水町	B		
19	能登町	B		
	計	19	8	

評価	集団 (市町数)	個別 (市町数)
A	0	0
B	11	3
C	8	4
D	0	1
E	0	0

評価基準

- A:「基準」をすべて満たしている
- B:「基準」を一部満たしていない(1~7項目満たしていない)
- C:「基準」を相当程度満たしていない(8~14項目満たしていない)
- D:「基準」を大きく逸脱している(15~21項目満たしていない)
- E:「基準」をさらに大きく逸脱している(22~28項目満たしていない)
- F:「基準」から極めて大きく逸脱している(29項目以上満たしていない)
- Z:回答がない

【大腸がん検診精度 5 指標】（詳細な結果は、表 2 を参照）

a. 「受診率」

大腸がん検診の対象者（算出方法は市町によって異なる）のうち受診された方の割合です。高いことが望ましいとされています。

b. 「要精検率」

受診された方のうち精密検査が必要とされた方の割合で、許容値は 7%（受診者 100 人中、要精検が 7 人）以下とされています。許容値を超えたのは、珠洲市、志賀町でした。

c. 「精検受診率」

「要精密検査」とされた方のうち、実際に精密検査を受けられた方の割合で、精度評価の最も重要な指標と位置付けられています。高い方が望ましい指標で、目標値は 90%以上、許容値は 70%以上とされています。70%を下回っていたのは、七尾市、川北町、中能登町でした。

d. 「大腸がん発見率」

受診された方のうち大腸がんが発見された方の割合で、基本的に高ければ高い方が望ましい指標です。許容値は 0.13%（受診者 1 万人で 13 例の大腸がん発見）以上とされています。規模が小さい市町の場合その年ごとの増減が大きくなるため、5 年間の平均で算出しております。

許容値を下回ったのは、羽咋市、中能登町でした。

e. 「陽性反応適中度」

検診で「要精密検査」とされた方のうち、実際に大腸がんがあった方の割合で、許容値は 1.9%以上とされています。規模が小さい市町の場合その年ごとの増減が大きくなるため、5 年間の平均で算出してあります。

石川県では、許容値を下回った市町はありませんでした。

※「精検受診率」は許容値を下回るとは良くないとされていますが、それ以外の指標は、人口構成による違いや継続受診者の比率などによっても大きな影響を受けるため、許容範囲外の場合、必ず問題があるとは言えません。また、「大腸がん発見率」「陽性反応適中度」は、小さな自治体では年度による変動が大きいとされています。